

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026年 3月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社にはほんの福祉ネット

認証評価機関番号

機構 06 - 168

電話番号 03- 6379- 5156

代表者氏名 永峯 治之

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	A	経営	H1901102
	②	B	福祉	H2201084
	③	C	福祉、経営	H2301066
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	立川市立羽衣保育園			
事業所連絡先	〒	190-0021		
	所在地	東京都立川市羽衣町2丁目51番7号		
	TEL	042-522-2161		
事業所代表者氏名	園長 岡部 暁子			
契約日	2025年 6月 24日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025年 9月 22日			
利用者調査結果報告日	2025年 11月 14日			
自己評価の調査票配付日	2025年 8月 20日			
自己評価結果報告日	2025年 10月 16日			
訪問調査日	2025年 11月 20日			
評価合議日	2025年 11月 20日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	市担当者との打ち合わせにより全体の流れ、留意事項の確認を行った。その後、事業所にて事前説明を行い、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により報告内容の精査・修正を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026年 3月 9日

事業者代表者氏名 立川市長 酒井 大史

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>子どもひとりひとりの育つ力を大切に、のびやかな環境の中で、生きるよろこびを生涯にわたって持ち続けられるようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人ひとりを大切にします</li> <li>・子どもの育つ力を大切にします</li> <li>・子どもが生きる喜びを持ち続けられるようにします</li> <li>・保育の専門性を生かして子育てを援助します</li> </ul>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <p>◎明るさと前向きな姿勢 ・笑顔を忘れず、物事を前向きに捉える気持ちがあると、まわりにも笑顔が広がり、子どもたちへも幸せな気持ちが伝わります。</p> <p>◎謙虚さと協調性 ・どんなに優秀な人でも一人で仕事はできません。誰でも、得手不得手があります。お互い様の気持ちを忘れず、相手の良いところを見ようとすると、チームとして仕事ができます。</p> <p>◎誠実さと向上心 ・それぞれの役割を、まわりと協力しながら一生懸命はたし、様々な角度から学び続ける姿勢を持ち続けてほしいと思います。</p> <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>◎公立園の職員として、それぞれのスキルを活かし、園内だけでなく、地域へ目を向け、足を向け、子育てを支えるパートナーになれるように期待する。</p>

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢児1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

ウェブ回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数	85
利用者家族総数(世帯)	75
共通評価項目による調査対象者数	75
共通評価項目による調査の有効回答者数	43
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	57.3

**利用者調査全体のコメント**

<総合的な満足度>  
 「満足」63%、「まあまあ満足」30%、計93%という満足度が示された。

<調査結果の講評について>  
 ・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

**利用者調査結果**

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	43	0	0	0
回答者の100%が「はい」と回答した。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	39	4	0	0
回答者の91%が「はい」と回答した。				

3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	40	3	0	0
回答者の93%が「はい」と回答した。				
4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	37	6	0	0
回答者の86%が「はい」と回答した。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	32	4	1	6
回答者の74%が「はい」と回答した。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	30	9	2	2
回答者の70%が「はい」と回答した。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	32	7	1	3
回答者の74%が「はい」と回答した。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	36	3	2	2
回答者の84%が「はい」と回答した。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	32	9	0	2
回答者の74%が「はい」と回答した。				

10. 職員の接遇・態度は適切か	36	5	0	2
回答者の84%が「はい」と回答した。				
11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	37	4	0	2
回答者の86%が「はい」と回答した。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	27	3	0	13
回答者の63%が「はい」と回答した。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	38	2	0	3
回答者の88%が「はい」と回答した。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	31	4	2	6
回答者の72%が「はい」と回答した。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	34	5	1	3
回答者の79%が「はい」と回答した。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	29	7	1	6
回答者の68%が「はい」と回答した。				

17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	30	4	4	5
回答者の70%が「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float:right">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	カテゴリー1の講評	
	保育理念・保育目標を職員間で確認し、保護者に丁寧に説明している 保育理念、保育目標は、正面玄関や事務室に掲示している。当該年度の園の目標については、年度初めの職員会議や研修などにおいて、職員に説明を行っている。さらに定期的に実施している園内研修においても共有を図り、職員間で理解を深め、保育活動につなげている。保護者には、ホームページやパンフレットによる発信、入園説明会での園のしおりの配布、保護者懇談会での関連資料の配布などにより、園が大切にしていることについて丁寧に説明している。	
	園が目指していることの実現に向けて、リーダーシップを発揮している 園が目指していることの実現のために、職員一人ひとりに職務内容を明示すると共に、人事評価基準を配布し、それぞれの役割を職員に周知している。また、市の重要な案件は、園長、副園長が会議に出席し、把握した情報を職員会議で責任をもって説明・報告を行って周知を図っている。こうした取り組みを通して、運営の責任を担う立場としてリーダーシップを発揮している。	
	重要な案件は手順に従い検討・決定し、周知を図っている 重要な案件の検討や決定は、園長会議、副園長会議、栄養士会議、保健会議で決定する手順を確立している。決定した事項については、職員会議や朝礼で説明を行うことを基本としている。場合によっては、書面の掲示や配布など、状況に応じて臨機応変に職員へ周知している。保護者への周知については、書面の配布や掲示、保育業務支援システムによる配信、保護者懇談会での説明など、状況に応じて対応している。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>保護者や職員の意向を様々な方法で確認している</p> <p>園に対する保護者の意見は、日々の会話や連絡帳を通して把握し、振り返りの中で共有し、取り組みに活かしている。行事後、保育参観参加後、懇談会参加後にそれぞれアンケートを取り、その内容を踏まえて対応している。職員が受けた保護者の意見などは、園長などに迅速に報告し、適切に解決を図っている。職員の意向については、園長(副園長)面談や会議などにより把握している。職員の提案や意見は、部門会議などで随時検討している。</p> <p>地域や福祉事業全体の動向については、様々なつながりを通して情報を収集している</p> <p>地域福祉の現状については、関係機関による会議(子ども支援ネットワークブロック会議)への参加や子ども家庭センターとの電話連絡などにより情報を収集し、園内で共有し、取り組むべき課題などの検討に役立てている。福祉事業全体については、園長会議などの各種会議や立川市社会福祉協議会、立川市障がい福祉課などの広報誌により情報収集している。また、立川市第5次長期総合計画(令和7年度～令和16年度)に基づき当該年度計画を策定している。</p> <p>計画の達成状況を定期的に確認している</p>		

当該年度の園の課題、ビジョン、基本方針などは職員全体に周知し、そこからさらに、各プロジェクトチームの課題や委員会、個人の目標などの計画を明示している。計画推進にあたり、進捗状況を半期ごとに確認を行っている。それぞれ、プロジェクトチーム、委員会、面談、個人で進捗状況を確認し、必要に応じて見直しを行い、必要に応じて計画の修正を行っている。

3 経営における社会的責任			
サブカテゴリー1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当

### カテゴリ3の講評

#### 守るべき法、規範、倫理などを職員に周知し、遵守を徹底している

保育に従事する者として守るべき法や規範、倫理などについては、職員間で共有することで、子どもの人権に配慮した保育を追求している。職員は入職時の研修、職員研修、コンプライアンス研修を受講し理解を深めている。さらに職員会議などで事例を交えながら確認している。市のコンプライアンス推進期間にも園として働きかけを行い、全職員が共通認識を持って保育に当たることができるように取り組んでいる。

#### 園内での学びを深め、関係機関との連携を図り、虐待の防止に取り組んでいる

子どもの人権を尊重した保育実践には、保育の質の向上が必要不可欠であると考えている。そこで、虐待防止や不適切な保育の未然防止などについて、事例を用いて勉強会を開催し、職員同士の話し合いを通して各自が学びを深めていくことを大切にしている。また、人権チェックリストによる振り返りを職員会議等で行っている。気になる子どもがいる場合は、マニュアルに基づき対応できるようにしている。まずは、市の子ども家庭センターへ連絡することとなっている。

#### 地域の一員として地域関係機関のネットワークに参画している

近隣児童館などに出席保育を実施し、子育て支援を行っている。また、園長は学校運営協議会に運営委員として参加し、ブロック会議や、地域の会議や行事へ参加するなど、地域の一員として関係機関との関係を構築し、そのネットワークに積極的に参画している。近隣園との連携や交流も重視しながら良好な関係を築いている。

4			カテゴリー4	
リスクマネジメント				
サブカテゴリー1(4-1)				
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	3/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			評点(○○○●●)	
評価	標準項目			
●あり○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている			○非該当
●あり○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている			○非該当
○あり●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している			○非該当
○あり●なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる			○非該当
●あり○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる			○非該当
サブカテゴリー2(4-2)				
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			評点(○○○○)	
評価	標準項目			
●あり○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている			○非該当
●あり○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している			○非該当
●あり○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている			○非該当
●あり○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している			○非該当
カテゴリー4の講評				
<p>危機管理マニュアルを基にして、各リスクへの対策を講じている</p> <p>各リスクへの対応及び対策については、マニュアルを基にして、不審者対応や事故・けがなどの防止、災害発生時の対応、アレルギー対応などについて職員間で確認し想定されるリスクへ備えている。また、自然災害を特に対応の優先順位が高いものにとらえ、計画的に避難訓練を実施している。業務継続計画(BCP)については、策定予定である。市の保育課と大規模訓練を計画し、実施している。</p> <p>リスクに対して危機意識を持ち必要な対策を取り、危険回避と再発防止に努めている</p> <p>リスクに対して危機意識を持ち、必要な対策として、年度初めの職員会議で危機管理目標を周知し、園内研修を行うなど理解を深めている。また、ヒヤリハットを含めたけがなどについては、原因の分析、振り返り、対応策の検討のほか、職員全体で情報を共有して、再発防止や深刻な事故の防止に取り組んでいる。保護者には、リスクへの対策について園だよりで伝えている。</p> <p>情報の収集、利用などについてのルールを定め、適切な情報管理を行っている</p> <p>園で取り扱う情報は、取り扱いのルールを設け、適切な管理を行っている。実習生にはオリエンテーションで実習生の心得として守秘義務などについて周知している。職員はe-ラーニングにより情報セキュリティ研修や個人情報研修を受講し、理解を深めている。個人情報は、重要度に応じて分類し、事務所の鍵のかかる書庫に保管している。個人情報の取り扱いについては、入園面接時や入園説明会で保護者に説明し、同意書ももらっている。</p>				

カテゴリ5			
5 職員と組織の能力向上			
サブカテゴリ1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当	

あり  なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

カテゴリ5の講評

**組織の能力向上を図り、また、職員としての長期的な展望を示している**

正規職員の採用は市の担当課が一括して対応している。人員配置に関しては、一人ひとりの意向を尊重し、個々の経験年数や育成を考慮して実施している。研修については、職員の意向や経験等に基づき参加を促している。職層別に必要な能力と受講すべき研修などを明確化している。園においては、職員に研修情報を提供し、希望する研修に積極的に参加できるよう、職員の応援体制を構築している。市公立保育園「保育士に求められる役割」を提示し、長期的な展望についても周知している。

**職員の意向の把握を丁寧に行い、一人ひとりの能力の向上に取り組んでいる**

園長は、職員一人ひとりが立てた人事評価表の「業績評価」「能力評価」を基にして年度当初の面談を行うと共に、目標達成に向けて定期的なヒアリングも実施し、振り返りを行っている。また、職員の資質向上のための研修についても、職員の意向をくみ取りながら参加を促している。新規採用職員にはサポーター職員を選任し、育成・指導している。また、研修報告書を活用し、不安や疑問点を共有しながら解消することで、着実な育成と同時にコミュニケーションも図っている。

**職員間の良好な人間関係の構築を図り、組織力の向上に取り組んでいる**

行事の委員会、乳幼児担任や多職種で構成された危機管理委員会、おたのしみ委員会、医療的ケア児委員会、地域還元委員会等で職員間で討議を重ねながらコミュニケーションを図っている。会議の前に参加した職員が一緒にわらべ歌を歌うなど、打ち解けた雰囲気を作り、交流を深めている。また、園長、副園長が面談を行い、職員の意向や悩みなど聞きながら、対応が必要なものはすぐに行い、意欲と働きがいの向上に努めている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

危機管理意識の向上を目標とした。中でも特に、子どもの事故(気道閉塞、頭部打撲、熱中症、SIDS等)への対応について、より理解を深めていくことにした。取り組みとしては、ロールプレイ形式による実践的な研修を行いながら理解を深めた。各職員(各クラス)が意識して取り組めるように、職員自らテーマや日程を選んで取り組みを行ったことで、前年度より各自が目的意識を持って主体的に取り組むことができた。今後も引き続き、職員一人ひとりが意識して取り組めるよう努めていく方針である。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

テーマとして取り上げた子どもの事故は、いずれも、それぞれのケースに対する正確な理解とそれに基づく確かな対応が、発生防止や発生時の事態の早期収拾に不可欠となるものである。的確な備えは、的確な対応につながる。そして、職員の主体的な取り組みは、非常時における臨機応変な対応を可能にする。子どもの安全を確保するための取り組みを通じて、職員の対応力の向上が図られている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

子ども主体の保育実践の継続には、それにあたる職員の採用・育成・定着が不可欠である。人材確保については、市の保育課で行っている。園の運営に支障がないように、月一回の園回りや園長会議などを通じて定期的に連携を取っている。ホームページやハローワークを中心に募集をかけてきたが、応募が想定通りに望めない状況が続いていたことなどから、今年度初めて保育人材派遣を取り入れた。その結果、人手を確保することができた。今後も、保育の充実をさらに図っていくため、引き続き人材の募集方法を模索していく方針である。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

特に人材の確保が困難な福祉業界にあって、保育の安定的な実施のために人材を確保すべく、様々な形で取り組みを進めている。人材の獲得に向けた取り組みと同時に、今いる人材がより力を発揮し、また長く働き続けられる環境を作っていくことも必要となる。ICT化のメリットを有効活用していくことは、効率化に馴染む分野における業務の効率化や職員の負担軽減にも資する。これまでも行ってきた創意工夫が、今後のより良い就業環境につながっていくことが見込まれる。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>市のホームページやパンフレット等を活用して園の情報を提供している</p> <p>市のホームページや園のパンフレットで情報を提供している。ホームページには、概要、保育方針、入所定員、職員体制、保育園の紹介・特徴、園からのお知らせ等を掲載している。保育室の様子は、クラスごとに紹介している。室内の写真を載せて、子どもがどのように遊び、どのように過ごしているのかコメントも添え、雰囲気が伝わるように紹介している。ほかに利用時間や年間行事、地域交流、園生活に必要な情報を項目別に表記し、簡単に情報収集できるようにしている。ホームページは必要に応じて随時更新している。</p> <p>園の取り組みや子どもの様子を、わかりやすく紹介している</p> <p>利用者や職員の状況を保育業務支援システムを保育課と共有している。延長保育の利用状況、子育て支援の参加人数等、毎月の事業実績を定期的に報告している。毎月の園長会議では、子どもや職員の状況の報告や情報交換を行い、地域ニーズの把握に努めている。子育て支援事業として園庭開放、育児相談を平日の午前中に行っているほかに、出前保育、移動図書館「はごろもごう」を実施している。こうした地域交流の情報は、行政や近隣の児童館等の関係機関に提供しているほか、参加者からも少しずつ反響が広がっている。</p> <p>見学者に子どもと職員の様子を見てもらい、保育の特徴等を説明している</p> <p>見学の受け入れは、年間を通して行っている。問い合わせや見学の申込みについては、随時、電話にて対応し、日程を調整している。見学は、園児が活発に活動している午前中に設定し、普段通りの子どもの様子、保育者の関わりや、園の雰囲気を感じてもらえるようにしている。希望があれば、午後や夕方時間帯で調整して受け入れている。見学時には、保育方針や保育の特徴について説明している。保護者が聞きたいことを想定し、短時間でわかりやすく伝えるよう心がけ、質問等には、個別の状況に応じて丁寧に対応している。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入園説明会や個別の面談を行い、重要事項について説明し同意を得ている</p> <p>新入園児については、保育開始前に入園説明会と個別の面談を行っている。入園説明会において、重要事項説明書やしおりに沿って園の利用時に必要な基本的なルールについて説明している。また、入園前健康診断日には、身体測定や健康診断を実施し、入園までの生活状況や健康状態、食事の状態等、保育に必要な子どもに関する情報を確認している。また、個別に面談し、重要事項説明書及びしおりの記載内容、保育の様子を撮影した写真の取り扱い、災害共済給付制度への加入について、保護者の意思を確認し、同意を得ている。</p> <p>入園前面談で得た個別事情を職員会議で報告、共有し、職員体制を確認している</p> <p>入園前面談時に健康状態や家庭での様子、アレルギーの有無、未摂取食品、保護者の就労状況等を丁寧に聞き取り、子どもの様子を確認しながら個人票に記録している。新入園児の情報は、職員会議等で個別情報を共有し、職員体制等を確認している。入園後に変更があった場合は、迅速かつ正確にし把握し対応している。保護者には、園の基本的な決まりごとを伝えながらも、意向や要望も聞き取り、各家庭の事情を考慮し、可能な限り柔軟に対応する体制があることを伝え、「その都度、相談してほしい」旨を説明している。</p> <p>子どもや保護者の不安軽減に配慮した支援に注力している</p> <p>入園前面接時は、必要な情報を聞き取るだけでなく、子どもの様子を丁寧に見て保護者の意向を伺いながら、安心して園生活をスタートできるようにしている。準備保育期間(短時間保育)を設け、園児の状況に合わせて調整している。そして、無理なく園での生活に慣れて行けるように配慮し、子どもや保護者の状況に合わせて保育時間を徐々に延ばしている。家庭と細やかに連絡を取り合い、信頼関係の構築に努めている。子どもの育ちや個別の事情は職員会議で周知し、担任だけでなく園全体で支援できるようにしている。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	13/13
3 個別状況の記録と計画策定			
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当	
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
<p>子どもや保護者に関する情報から課題を明確にし、保育に活かしている</p> <p>日々の保育は保育日誌、個別日誌等、統一した様式に記録している。発達の指標に基づいて成長・発達の状況を確認し、課題を明確にしている。また、巡回相談や嘱託医への相談により得たアドバイス等を記録している。クラス懇談会や個人面談では、保護者の意向や要望等を把握し記録して、保育に反映している。個々の発達の姿や保育の経過は定期的に児童票に記録して共有している。週、月、年等定期的にクラスや年齢別、全体職員会議で話し合い、関連する情報の見直しを行っている。</p> <p>全体的な計画をもとに指導計画を作成し、保護者会や園だより等で保護者に伝えている</p> <p>全体的な計画に基づき、園の年間目標を立て、養護と教育の各領域を考慮して各クラスの年間指導計画を作成している。各年齢の成長・発達を踏まえ、月案、週案を作成して保育の振り返りを行い、個々の子どもの育ちを確認しながら、評価や考察をもとに各指導計画や個人別配慮等を作成をしている。年度当初の保護者会では、保育について資料を作成し、年齢ごとの成長・発達や指導計画、保育のねらい等をわかりやすく説明している。年度末の保護者会では、園児のエピソードを交えて、保育の振り返りを伝えている。</p> <p>子どもに関する情報は申し送りや引継ぎを確実にし、職員全体で共有している</p> <p>毎日の保育について、職員会議や朝礼を通じて情報を共有している。朝夕の保育を担当する職員への伝達事項は、引継ぎ簿に記載し、口頭で伝え申し送りしている。事例研究法の一つ(インシデントプロセス法)を用いた研修を行い、実際の出来事を題材にして、質疑応答を通じて問題点を洗い出し、解決策を模索している。こうした実践を通して、子どもへの理解を深めている。会議に出ていない職員(月給制、時給制)には会議録を配布したり、事務所へ掲示したり、個々の職員ができるだけ同じ観点で保育を進めることができるよう情報を共有化している。</p>			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>日常の中で子どものプライバシーに配慮した保育を行い、保護者の理解や同意を得ている</p> <p>入園時に配布している園のしおりに個人情報の取り扱い及び写真についての対応方針と考え方を明示している。そのうえで、入園時には、保育の様子を撮影した写真の取り扱いとして、行事や日常保育、ホームページや園内の配布物への掲載等、保護者の意向を細かく確認して同意書を交わしている。同意が得られなかった場合は適切な対応を取るよう徹底している。また、おむつ替えやトイレの使用の際の子どもへの羞恥心への配慮や、シャワーやプール遊び等に際しての着替え時は外部から見えないように目隠しをする等、プライバシーの保護を徹底している。</p> <p>学びや振り返りを通して子どもの権利について意識の向上に取り組んでいる</p> <p>子どもや保護者の多様性を理解し、気持ちに寄り添い個々の状況に応じた保育を行っている。個々の生活リズムに配慮し、子どもの声に耳を傾け、一人ひとりを尊重している。子どもの権利擁護についての学びを継続し、日頃の自分自身の言動を振り返り、否定語、禁止語を使用しない等、子どもへの言葉がけを意識して行動している。職員間で気になることは、互いに声に出し合い、話し合いや確認ができる職場環境を保てるようにしている。気づいたことがあれば互いに声をかけ合い、速やかに園長や副園長に報告している。</p> <p>研修などを通して、虐待や育児困難家庭への支援について理解や認識を深めている</p> <p>日々のコミュニケーションや個人面談を通して、保護者の考え方や子どもの生活習慣等の情報を共有し、子どもが楽しく気持ちよく過ごせるよう配慮している。個人情報の取り扱いに関しては、マニュアルに則り適切な取り扱いを徹底している。また、虐待防止の研修受講やチャェクリストの活用により、園の責務について理解を深め、全職員が共通認識に立って対応できるよう心がけている。東京都や市からの通達等は、掲示や配布により職員への周知を図っている。育児困難や虐待が疑われる場合には関係機関と連携して、速やかに必要な対応を取れる体制がある。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>マニュアルに基づき業務の基本事項や手順等を明確にしている</p> <p>園の運営方針や勤務・サービスについて、基本事項や手順に沿った業務が行われているか、職員会議・各係・各保育反省の中で定期的に確認し、必要に応じて見直しをしている。運営の手引き、各マニュアルや手順書は所定の場所に備え、いつでも確認できるようにしている。基本事項に関しては、園のしおりを職員に配布し、保護者から質問を受けた時に同じ回答ができるようにしている。日々の保育に係る確認頻度の高い事項や基本的な共有項目については、事務室内に掲示して、必要となる行動や手順を誰でも一目で確認できるようにしている。</p> <p>保護者や職員の意見や提案を職員会議で検討し改善に努め、実践に反映している</p> <p>会議では職層、経験に関わらず意見を出し合えるような環境や雰囲気となるよう努めている。行事後は、実施時期や子どもに適した内容だったか等を検証し、職員の意見を集約して次回に活かしている。気づいたことは都度皆で話し合い、状況に応じて柔軟に対応している。毎年、保護者アンケートを実施しているほかに、懇談会、個人面談、連絡帳、送迎時の会話等、多方向から意見を収集している。意見や要望は真摯に受け止め、職員会議で討議し、改善につなげていくことで、保護者のニーズに合わせた保育運営を行えるようにしている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>子ども一人ひとりの発達段階を把握し好きな遊びを楽しめるように環境の工夫をしている</p> <p>保育日誌、連絡帳、個人面談記録、児童票等の記録から、日々の保育の振り返りを行い、クラスの中で個別目標や援助についての情報共有を行うようにしている。個々の発達の姿を確認し、子どもが「やりたい」と思うことを実現できるような保育の実践について話し合いを重ね、職員間の連携と共通理解を図り、支援についての学びを継続している。子ども一人ひとりの発達過程や生活状況を把握したうえで、子どもの興味・関心に合わせたコーナーを設け、玩具や遊具を用意し、子ども自身が自己発揮できる環境を作り、主体的に遊べるように配慮している。</p> <p>一人ひとりの個性を大切にし、特性を認め合える関係を日常の中で作っている</p> <p>日々の保育の中で子どもを尊重し、違いや良さを認めた声かけや関わりを行っている。幼児異年齢クラスは週1回以上の年齢別の活動を設け、1、2歳児は年齢ごとに他クラスと交流を持てるようにしている。一人ひとりの育ちや個性を大切にし、職員も子どもも、互いに違いや良さを認め合い、刺激し合える関係を育んでいる。子どもの特性や要求に対して職員間で共通理解し、クラス以外の場所でも子どもが心地よく過ごし、その子自身が好きなこと、安心して過ごせる居場所を見つけることを大事にしている。</p> <p>全職員が共通認識を持ち、子どもの気持ちを尊重して個々の成長・発達を支援をしている</p> <p>全職員が共通の認識を持って子どもと関わることができるよう、園全体で連携を密にして成長を伝え合っている。子ども同士のトラブルは、発達の過程での大切な経験として捉え、年齢に合わせた伝え方に対応している。保護者に対しても、それぞれの発達を踏まえた状況を伝えている。また、就学に向け、保育所児童保育要録や就学支援シート等を活用して、小学校への円滑な接続を図っている。さらに5歳児懇談会では、近隣小学校の校長先生を招き、学校の様子や就学前の準備等を話してもらうなど、保護者の安心につなげている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>家庭での様子を共有して子どもの生活リズムに配慮した保育を行っている</p> <p>日頃から保護者との対話を心がけ、登園時にあいさつを交わし、子どもの表情や顔色、保護者と子どもの様子等を観察しながら、前日からの家庭での様子を聞いて引継ぎ簿に記入している。保育業務支援システムにて登園状況、家庭からの連絡、健康状態を確認している。乳児クラスは連絡帳も活用して朝の時点で確認し、前日からの引継ぎがある場合は当番職員に伝え、登園時に保護者に直接声をかけ詳しく聞き取りをして、状況に応じて看護師と連携して対応している。生活リズムを整える大切さを知らせながら、個々の事情に合わせて柔軟に対応している。</p> <p>年齢・発達に合わせた園の取り組みを伝えながら家庭と連携した支援をしている</p> <p>年齢・発達に配慮し、生活面の対応を丁寧に援助して、子どもの生活が安定するよう保育を行っている。食事、排泄等の基本的な生活習慣については、一人ひとりの様子を日々確認し、子どもの気持ちを汲み取りながら、年齢・発達や個人差、家庭状況等を考慮し対応している。クラス懇談会では、作成した資料をもとに、年齢に応じた生活習慣の大切さや発達について伝えている。その子にとって健康で快適な日々を送れるようにすることが大切であると考えている。職員間で情報を共有し、子どもの生活リズムに配慮し、家庭と連携した支援を行っている。</p> <p>降園時にはその日の子どもの状況がわかるよう保護者に伝えている</p> <p>入園後しばらくの間は、特に個々の生活リズムに合わせて休息を取るようになっている。その日の体調や個人差、年齢、活動等や家庭の意向を考慮し、適切な休息方法で体と気持ちを休めるように、発達や個々の生活リズムに応じて時間帯や環境等の配慮をしている。5歳児の午睡については、就学を見据えて柔軟に対応している。降園時は、伝言漏れのないよう引継ぎ簿を活用して申し送りを行っている。担任または当番の担当職員は、日中の様子をひと言でも保護者に伝えるなど、できる限り保護者と直接会話を交わし、コミュニケーションを図っている。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>職員の共通理解と協力のもと、子どもが遊び込める環境を整えている</p> <p>各クラスに、発達や興味に合わせたコーナーを設けることで、好きな遊びをじっくりと楽しむ空間を確保している。また、自由に描いたり、様々な道具を使って自由に創作できるような活動を設定し、一人ひとりの気持ちや要求を受け止めている。歌や合奏、絵本や紙芝居を見たり、聞いたりして一緒に楽しむ経験を積み重ね、子どもが主体的に活動に関われるようにしている。幼児クラスは、ルールのある遊びや、ひとつの目標に向かってみんなで取り組む活動を通して、友達と関わる楽しさを十分に味わえるようにしている。</p> <p>子どもは安心して自己表現できる環境の中で活動を重ね、力をつけている</p> <p>子ども一人ひとりの年齢や発達、育ちを踏まえ、個々の思いを理解した上で、保育士が声をかけ仲立ちし、あいさつや遊び等を通して応答的なやり取りを重ね、自分の思いや考えを言葉で伝えられるよう配慮している。集団が苦手な子どもの思いを汲み取りながら、体を思いのままに動かす楽しさや様々な表現を楽しめるよう、うたの日やリズムの時間を設けて合同で行う中で、友達との関わりが自然に広がっている。日々、子どもが自由に描いたり作ったりした作品は、廊下等をギャラリーにして展示し、皆に見てもらえるようにしてさらに楽しんでいる。</p> <p>生活や遊びの経験を通して周囲への関心を広げ、気づきや感性を育てている</p> <p>季節に合わせた歌や手遊び、絵本を保育に取り入れている。戸外遊びでは、毎日のように散歩に出かけ、気温や植物の色の变化、木の実や虫探し等を通して、子どもが季節の移り変わりを感じられるよう配慮している。子ども同士の間わりの中で、自然に異年齢児が遊ぶ姿がある。物の貸し借りや順番を待つこと等、年齢や発達に合わせて、保育士が仲立ちとなりながら、自分の気持ちを調整する経験ができるようにしている。ルールのある遊びを取り入れ、きまりを守ることや、相手の気持ちも受け入れ、気持ちを調整する力を育むことを大切にしている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p><b>行事の持つ意味や目的を明確にして、子どもが進んで取り組めるよう工夫している</b></p> <p>日々の保育を充実させ、季節や伝承行事を大切に、年齢に応じた参加の仕方や伝え方を職員間で検討して行事を実施している。日々の保育活動の中から楽しんだり、子どもの興味・関心のあるものを行事につなげ、子どもが主体的に活動できるようにしている。保育士は、子どもの「やりたい」という気持ちを大切に、意欲的に経験できるよう工夫している。行事の内容は、年齢別に取り組むことも多いので、幼児は皆で話し合ったり、友達とぶつかり合ったりして刺激を受け、協力して進める中で達成感を味わい、その後の活動へとつながる姿が見られている。</p> <p><b>行事に取り組む過程を通して、心の成長を育んでいる</b></p> <p>行事は取り組みの過程を大事にしている。特に幼児は話し合いの中で自分の意見や思いを伝え合い、自分なりのイメージを持てることや、友達と協力しながら個々が力をつけ、達成感や充実感を得ることができるようにしている。皆で協力して一緒に楽しむ経験となるよう、クラスと年齢別の両方の良さを取り入れて進めており、5歳児の取り組みを見て4歳児が憧れ、次年度に向けた思いを持つことができている。子どもの姿を職員が共通理解し、一人ひとりの子どもに合わせた取り組みとなるよう、園全体で連携して取り組んでいる。</p> <p><b>行事の目的や取り組みの様子を発信し、園と保護者が子どもの成長を共有している</b></p> <p>行事は、文化や季節を知らせ、行事を楽しみにする気持ちが生活の活力となり、子どもが周囲の人と共有し進めていくという共同・協同の心を育てる機会となる。年度当初に年間行事予定表を配付し、クラス懇談会では各クラスの行事の目的や取り組み等を説明している。行事に向けた活動の様子は、園だよりやクラスだより、連絡帳や連絡板等で伝えている。日々の取り組みでの葛藤が自信につながっていく姿や、小さい子が大きい子の真似をして憧れたり、応援したり、大きい子が手伝ったりする様子を伝え、子どもが成長していく姿の共有を図っている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心して、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p><b>子どもが落ち着いて過ごせるよう、保育環境に配慮している</b></p> <p>朝夕保育は人数に応じた体制を整え、子どもが安心して過ごせるようにしている。乳児は、合流する時間を遅めに、なるべく少人数でゆったり過ごせるよう体制を整えている。幼児は、合同保育で他クラスと一緒に過ごす環境の中で、じっくりと遊べる遊具や玩具の設定を心がけている。また、横になって体を休めたり、ほっとできる空間を設ける等、子どもが落ち着いてくつろげる環境を整えている。保育時間の長い子どもが安心して過ごせるよう、保育や環境等について気づいたことは、都度改善に努め、保育形態の見直しを行っている。</p> <p><b>保育形態が変わる中で安心して過ごせるように活動や設定を工夫している</b></p> <p>朝夕保育は、時間帯により職員の入れ替わりや保育形態の変化があるため、引継ぎ事項等は、朝礼や職員会議、引継ぎ簿で共有している。保護者とのコミュニケーションを大事にして、送迎時にはできるだけ声をかけ、体調や機嫌等、子どもの様子を職員が把握して伝えられるようにしている。朝夕の職員はなるべく固定し、子どもも保護者も安心できるようにしている。また、子どもの人数や様子を見て遊具を入れ替えたり、変化を持たせて楽しく過ごせるように配慮している。日中の活動も把握しながら、静と動のバランスも考慮して保育にあたっている。</p> <p><b>職員間で連携を取り、子どもが安心して楽しく過ごせるよう配慮している</b></p> <p>朝夕、延長、土曜保育の合同保育では、年齢・発達に合わせた玩具・遊具を用意して環境を整え、子どもが選んで遊べるようにしている。子どもの状況に応じて、定期的に玩具等の入れ替えや、環境の見直しをしている。日頃から異年齢で過ごしているため、合同保育でも子ども同士が互いの様子を気にしながら自然に関わる姿が見られている。当番には、できるだけ担任や慣れた職員が入るように体制を配慮し、子どもが安心して過ごせるようにしている。朝夕保育は職員が互いの保育を見合う良い機会となり、クラス保育とは異なる気づき等を共有している。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>楽しく食べることができるよう年齢や状況に合わせ工夫して食事を提供している</p> <p>栄養指導計画に基づき、各クラスの取り組みに反映させている。各クラスで配膳を行い、個々に合わせた食事量に調節している。職員も一緒に食事することで食事の楽しさを共有している。乳児は決まった席で保育士が側につき、ゆったりと落ち着いて食事ができるようにしている。栄養バランスのとれた献立を作成し、毎月行っている給食会議の中で確認・変更している。毎日の検食により調理方法や固さ、きざみ、味付け等、確認している。栄養士が各クラスで食事をしたり、調理員が子どもの様子や喫食状況を確認し、今後の献立の参考としている。</p> <p>子どもの年齢・発達や体調等に合わせ、安全な食事を提供している</p> <p>食物アレルギー対応マニュアルに則り、主治医の指示のもと必要な書類を提出してもらい、除去食を提供している。誤食を防ぎ安全に提供できるようにマニュアルを遵守し、栄養士・調理師・看護師・園長・担任が毎月献立を確認している。保護者にも確認してもらっている。配膳の方法・手順、受け取りや管理については、細心の注意を払い実施している。離乳食や個々に対応が必要な場合は、家庭と連携して成長・発達や喫食状況に合わせて食形態を変える等、個別に進めている。文化の違いによる食事の事情についても保護者と確認して対応する体制を備えている。</p> <p>野菜の栽培や調理等、実体験を通して食への関心を高めている</p> <p>計画に基づき、クラスごとに食育に取り組んでいる。自分たちで育てた野菜を収穫し、クッキング等を行い食べる経験を通して食に対する関心を持てるようにしている。乳児でも野菜の皮むき等、食材に触れる機会を持っている。収穫した野菜を子どもが調理室へ届け、給食メニューに取り入れている。収穫後に食べる機会を持つことで、苦手の野菜に対して興味を持つことができている。定期的に栄養指導を実施し、毎月、給食だよりを発行して食に関わる情報や知識を伝えている。食事面の子どもの成長・発達はクラス懇談会や個人面談でも伝えている。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>自分の体や健康について関心を持ち、けがや病気の予防ができるよう援助している</p> <p>保健食育計画に基づき、看護師と栄養士を中心に、病気やけがの予防、自分の身体の守り方等について、年齢や発達に応じて子どもが理解できるように伝えている。また、5歳児の保護者を誘い一緒に学ぶ機会を設けている。職員は、市立保育園共通の危機管理マニュアル(予防編も含む)に基づき、園外保育、熱中症対策、プール・水遊び、食事、午睡、園児のけが等の非常時に、適切な行動が取れるよう確認している。危険な行動については、日々の保育の場面ごとに子どもに伝え、常に確認を行うよう心がけている。</p> <p>子どもを病気やけがから守るために必要な援助について学び、知識向上に取り組んでいる</p> <p>医療的ケア児受け入れ園としての役割を担うため、医療的ケアについての研修受講や学びの共有に努め、体制を整えている。医療的ケアが必要な子どもの受け入れについては、市のガイドラインに沿って、入園等検討委員会で決定することになっている。緊急時の対応については、該当児のかかりつけ医と連携し、受診を行う流れになっている。継続時には、状況確認書を提出してもらっている。また、慢性疾患等、与薬が必要な場合や、熱性けいれん、アレルギー、皮膚疾患による薬の使用については、保護者を通して医師の指示に基づき対応している。</p> <p>保護者と連携して子どもの健康維持に向け、保健や健康の知識と意識の共有を図っている</p> <p>保健に関わる情報は、掲示や保健だよりを通して保護者と共有している。保健だよりでは、乳幼児が罹患しやすい感染症についての情報や予防について載せている。園内で感染症が出た場合には、保健ボードを使用して速やかに保護者に知らせ、保育業務支援システムでも配信している。嘱託医と連携して子どもの発達課題等、相談できる体制がある。乳幼児突然死症候群(SIDS)については、園のしおりに記載し、入園説明会で伝え、ポスターを掲示して保護者に知らせている。看護師は毎日各クラスの子どもの健康状態を把握し、健康管理に役立てている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>家庭状況等、保護者の個々の事情に配慮し、状況に応じた支援をしている</p> <p>日々の送迎時や連絡帳、個人面談等を通して保護者との信頼関係を深めながら家庭と子どもの姿を共有している。保護者の就労や家庭の状況に応じ保育時間を決めている。また、子育ての悩みや疑問は、その都度面談等を行い、丁寧に話しを聞いている。特別な事情がある場合については、市と情報を共有し、必要に応じて関係機関に相談する等、支援につなげている。職員会議の中で個々の事情や支援について皆で考え共有している。保育時間の延長や土曜保育、また、突発的な電話での依頼にもできる範囲で適宜対応している。</p> <p>日々の保育や子どもの様子をわかりやすく伝える工夫をして保護者の安心につなげている</p> <p>毎日の送迎時には挨拶を交わし、できる限り園での様子を直接伝えるよう心がけている。また、連絡帳を通して家庭と園との情報交換を行っている。保護者との良好なコミュニケーションを図り、小さな気づきや変化等、個別のエピソードを伝えるよう心がけている。年度当初のクラス懇談会では、園の方針、安全計画、保育内容、各年齢の姿やねらいを丁寧に説明している。保護者からの要望もあり、各クラスの懇談会のグループディスカッションの時間を長く取るようにして、保護者同士が活発に対話し、交流できるようにしている。</p> <p>子どもの発達や育児について保護者と共通認識が得られるように取り組んでいる</p> <p>年間行事予定を年度当初に配り、園だよりやお知らせで行事のねらいや主旨も伝え、保護者が参加しやすいようにしている。保育参観、保育参加を随時行い、長期間実施時期を設定し、人数を調整して保護者の都合の良い日に実施している。実際に保育を体験し、保育士の関わりや子どもの姿、他の子どもの様子を知る機会となっている。希望者には、給食の提供や個人面談も行っている。日々の活動内容や子どもの様子は、送迎時のやり取りや連絡帳でタイムリーに共有し、園の保育への理解を図り、ニーズを把握し、きめ細やかな対応で子育て支援につなげている。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>子どもの生活の幅を広げる多様な体験ができる機会を設けている</p> <p>市のおはなしボランティアの方による、わらべ歌や素話のおはなし会を年数回実施している。近隣の障害者施設の方とのロボットを介した交流会や、他の保育園との交流会も設けている。5歳児同士が、近隣の公園で一緒に遊ぶ計画を立て、やり取りを通じて関わりが広がっている。互いに親しみを持ち、年長児が就学に向けて期待を持ち、小学校への滑らかな接続を意識した取り組みとなっている。ほかにも地域の音楽ボランティアの方によるコンサートや、市の環境学習支援の野外活動等、地域資源を活用した多様な体験の機会を積極的に保育に取り入れている。</p> <p>子どもが地域と関わり、様々な体験をしながら生活の幅を広げていく</p> <p>各連絡会へ参加し、地域の保育園、小学校や関係機関と良好な関係を築き、交流会等に園から出向いて参加し、地域との交流を持つことができる。子育て支援事業の取り組みである園庭開放に参加する地域親子と園児が触れ合う機会はある。このほかにも、園の取り組みへの参加を広く呼びかけることができると考えている。地域の親子を園の行事や、給食の試食会へ誘い、園児と直接交流できる機会を検討している。今後は、子どもの生活や体験をより豊かなものとし、ひと・もの・こととの関わりを広げられるよう取り組んで行く方針である。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	子どもが自分で考え、安心して遊び込むことができる環境を提供できるよう工夫している	
内容①	各クラスでは、子どもが自分の好きな遊びを選び、夢中になって遊び込むことができるよう子どもの成長・発達や興味に合わせたコーナーを設けている。安全に配慮しながら、いつでも自由に描いたり作ったりできるよう様々な道具が使える環境を整えている。子どもが集中している時は適度な距離で見守り、興味を示すものを見つけられない時は一緒に探し、子ども自身が考えて行動できるよう声をかける等、関わり方にも配慮している。職員は、子どもが主体的に活動に関わり、安心して遊べる環境を提供できるように様々な工夫をしながら日々進んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	保護者との信頼関係を深め、子どもの成長を共有する取り組みを行っている	
内容②	保護者が子どもの成長を知り、大きくなった姿に見通しを持ち、待ち遠しく思い、子育てを楽しみにすることも親支援のひとつと考えている。入園時や年度初めのクラス懇談会では、園が大事にしている保育について丁寧に伝え、随時受け入れを行っている保育参加や参観への参加を促し、保護者がわが子だけでなく他クラスの保育や園全体を体感してもらう機会を設けている。日頃の活動の様子を実際に見て、保育者とのやりとりや友達との関わりを共有し保育の理解を図っている。子どもが園生活を楽しむ姿を通し、保護者の安心・安全と信頼につなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル③	近隣施設と協力、協働できる体制を整え、地域の中で保育園の専門性を発揮している	
内容③	地域交流等の子育て支援事業に取り組んでいる。園庭開放や育児相談を平日の午前中に実施しているほか、児童館への出前保育も行っている。移動図書館「はごろもごう」の開催日以外、絵本の貸し出しにはいつでも対応している。子どもの成長・発達や遊び、保健衛生や子どもの病気、離乳食の進め方等子育ての悩みを保育士や看護師、栄養士が受けることもあり、保育園職員の専門性を発揮している。また、近隣の児童発達支援事業所とも定期的に交流を行う等、園の子どもが、社会とつながることができる協力体制や連携が深まっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	戸外・室内どちらの活動でも子どもが楽しく身体を動かして遊べるように工夫している
	内容	毎日のように近隣の公園や緑地へ散歩に出かけ、思う存分体を動かして遊んでいる。戸外活動では、気温の変化を肌で感じ、植物の色の変化に気がついたり、木の実や虫探しを行ったり、身近な自然物に触れて季節を感じられるよう配慮しながら、のびやかな環境の中で保育を行っている。また、酷暑や大雨等の荒天により戸外での活動ができない時には、室内にトランポリン、跳び箱、鉄棒、マット等を組み合わせてサーキットを用意し、子どもが安全に楽しく運動遊びができるようにしている。屋上やホール等園の環境を活用して子どもの心身の成長を促している。
2	タイトル	子どもの発信から豊かな保育を展開するため、様々な工夫をして取り組んでいる
	内容	子どものアイデアや発信を尊重し、それを保育者がキャッチして寄り添いながら、子どもの「やりたい」という思いが実現するように日々の保育の中で考え、活動を展開している。特に幼児の取り組みでは、異年齢保育の中で育まれることを大事にしなが、年齢別の成長・発達を踏まえ、子どもの発想や気づきに注目し、プロセスを大事にした働きかけや支援を工夫している。子どもが主体的に集団活動に関われるよう援助し、活動を積み重ね、力を合わせてひとつのものを作り上げる経験や、やり遂げる喜びや楽しさを味わうことができるようにしている。
3	タイトル	職員間のできるコミュニケーションが組織力と保育力の向上に結びついている
	内容	職員間のコミュニケーションが良好で、日頃からクラスの枠を超えた意見交換ができる風通しの良さがある。園内研修で子どもの理解を深め、グループディスカッションや事例検討の一手法であるインシデントプロセス法を用いて、保育を語り合う土壌ができています。また、子育てや介護との両立や仕事と生活の充実を目指し、園全体でワークライフバランスを意識した働き方に取り組んでいる。クラスを超えて互いにフォローできる等、職員間のチームワークは良い。皆で話し合い連携した対応により日々の安心・安全な保育の提供や組織力向上につながっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	リスクに対する必要な対策を再確認し、より安全な行動や対応ができるようにしていく
	内容	職員全体でマニュアルを確認し、事故や感染症等への対策、保護者への周知に取り組み、災害発生を想定した避難訓練を実施している。危機管理をさらに充実させていくためには、BCPや各種マニュアルへの理解と行動を改めてすり合わせ、個々の職員の行動や役割を明確にして備えることが必要となる。避難訓練の内容や想定の見直し、危機管理シミュレーション研修の充実等も有効である。ヒヤリハットの活用やリスクマネジメント対策の意識を高め声に出し合える関係性を保ち、より適切な行動が取れるようにしていくことを課題としている。
2	タイトル	特別な支援が必要な子どもの保育を学び、環境の整備や受け入れについて考えていく
	内容	医療的ケア児の受け入れ園として、「子どもを真ん中にした視点」を大切にしながら個々の発達に必要な支援に取り組んでいる。統合保育を行うことで自然に多様性の理解につながり、成長し合う子どもの姿がある。環境整備については、実際に生活して気づくことも多く、園ができる手立てを講じ、今も対応しているところである。子どもが共に学び合う環境を作るためには、職員一人ひとりのさらなるスキルアップが必要となる。今後も、学び合いにより知識を共有し、医療的ケア児や特別な配慮が必要な子どもの援助の充実を図っていくことを課題としている。
3	タイトル	互いに情報共有を密にして成長し合える、より良い組織づくりを目指していく
	内容	園内研修を多く取り入れ、活発なグループディスカッション等で子どもへの理解を深め、遊びや環境の充実を図るため、職種や立場を超えた情報共有に努めている。園としては、職員が自分の思いを安心して話せる雰囲気構築し、語り合える場をさらに増やしたい思いがある。そこからまた職員間の共有を密にして、保育の質の向上や保育の継承を目指す意欲を持っている。今後も、一人ひとりの職員が自信を持ち、自分の強みを活かして保育の工夫や展開ができるような組織を目指し、チーム力向上と人材育成に取り組んでいくことを課題としている。